京城新聞

偶感一束

不及生

▲民長官撰問題に關し暗啞咆號の熱情と踊躍叱咤の氣勢とを漲らせし結果官憲の忌諱とやらに觸れたる我が同業者大韓日報と朝鮮日日新聞とは世人も知る如く此程漸く解停の恩命に接し候、思ふに兩紙とも發行停止の期間割合に長く一時は殆んど禁止的停止かとも思はれし程にて候、併し大局より見れば新聞紙の發行停止程滑稽なるものはなくイッツ停止をする位なら禁止をするが氣が利き居り候、定し其の筋の御所存にては此奴口が惡く生意氣な事ばかり叩きたがるに依り一寸口の先きをッチつて遣れ位の所にてヤレ統監府令第何章新聞紙條例第何章とかの仰々しき銀紙刀的の武器を拾き出し、威嚇さるゝにも候はんも、一朝停止が解くれば元の身体又候初めの纈きを語り出す之れ講談師のみにはあらず誰れでも當然のことに候、ソレよりはマツ第一に冗談にも新聞紙などを停止せず、之が原泉たる居留民の口をば片ッ端からッチり初むるが手ッ取り早く亦効果多かるべしと被存候

▲嚴妃の渡日説は眞實なりと申す人もあれば又臆説なりと傳ふる向も有之、何方等が何やら一向要領を得ず候、前説は東京よりの電報にして後説は韓國宮内官なにがしどやらの言葉にて候、尤も此の官吏といふ奴は何れまれイヤに斯う隱し立てをしたがり殊に宮内官吏と來ては、官吏の中にても更に關けず幾に性質のコヂれ居るものに候へば、或は爰一寸コヂれて渡日説を打ち消したるものには無之やとの疑も有之候も、併し何ち等にいたせ別に天下の大問題には無之從て我々操觚者の心臟を騷がせる程の事件には無之候も、もし前説の如く果して渡日せらるゝものといたし候へば、我が紙二十三日の二面雜報に記載しある某氏の談話の如くなさるゝが畏れ多き次第には候へども、名譽の東上かとも被存候、敢て問ふ宮中の歴々方以て如何に御勘考被成候哉

▲元軍部協辦玄暎運●●●●● いよ〳〵詐僞取財被告人として地方裁判に廻され、目下檢事の取り調べを受けつゝある由に候氏も性根は却々利巧にて世渡りは旨く且つ一時は太皇帝のお覺えも目出度く、從つて社會に立つて相當に羽振りもよく候ひしが、如何なる天魔が魅入りしにや、那のやうな飛んでもない事をなされ、今や將に縲紲の身とならんとすることの返す〳〵も其の心根の程こそ思ひ遣られて憐れにも亦いみじく被感候、尤も氏には飽迄も控訴せらるゝことには候はんも、併し何の道近き將來に於てはマッ社會に立つての活動は六ケ敷候暫らくは蟄て暮す事こそ本人の爲め得策かと被存候、

●外國貿易旬報

（八月中旬關稅局調査）

區別	本旬本年分	前年同期
輸出品價	三二八、四一四	二三四、二二九
輸入品價	一、二二七、三三三	一、〇七六、九五三
合計	一、五五五、七四七	一、三一一、一二三
輸入超過	一	一

本年貿易額の港別左の如し

本旬分

港名	輸出額	輸入額	計
仁川	四三、九三五	五四四、七六六	五八八、七二一
釜山	一三五、一九九	二五八、六九一	三九三、八九〇
元山	一〇、〇三三	一〇六、三一七	一一六、三五〇
鎭南浦	二五、四二八	一一〇、〇六八	一三五、四九六
京城	一	七九、九六八	七九、九六八
群山	二四、八八五	三四、二九五	五九、一八〇
木浦	二一、五三一	一四、四八九	三六、〇二〇
馬山浦	七、九三三	一〇、九二三	一八、八五六
清津	一	一九、二二九	一九、二二九
城津	一、七三六	一一、八二八	一三、五六四
新義州	二七、七七三	二六、七一〇	五四、四八三
計	三二八、四一四	一、二二七、三三三	一、五五五、七四七

次に本年各港の貿易額を前年同期に比較すれば左の如し

前年一月以降本旬迄の累計

港名	輸出額	輸入額	計
仁川	二、二三七、四八二	一一、五〇四、六〇三	一三、七四二、〇八五
釜山	三、三三一、〇五三	九、三六〇、七七七	一二、六九一、八三〇
元山	六八六、二二二	一、七二九、六〇七	二、四一五、八二九
鎭南浦	九六五、一一一	三、二五一、七四八	四、二一六、八五九
京城	一〇、八〇七	二九六、三三〇	三〇七、一三七
群山	一、一九〇、一七〇	三九一、三三五	一、五八一、五〇五
木浦	七三三、八三五	三七九、三〇三	一、一一三、一三八
馬山浦	一四六、三〇八	六二八、三五八	七七四、六六六
清津	一	一	一
城津	一三三、四一七	一四五、六八五	二七九、一〇二
新義州	二九〇、六九五	三〇七、九〇四	五九八、五九九
計	八、六七四、一四〇	二二、九一五、六七〇	三一、五八九、八一〇

（○文苑）

●日曜の夕

大庭生

向側の時ちゃんが、涼しい聲で螢の光を歌つて居ると、ジョンが駈けて來てコロリと横になる。そよ吹く風に、時ちゃんの黄ないリボンがヒラ〳〵と舞ふ、恰然蝶のやうだ、日は未だ幽に今日の名殘を止めて居る向ふの家からも此處の屋根からも、黑いそして又薄黑い煙が、渦を卷いて上ると忽ち風の爲めに臥されて仕舞ふ、裏の方で甲走つた聲がする、例の廂髮だらう夫もどう〳〵聞ねずなると崇嚴な鐘の音がする、ソレは坂上の敎會堂で撞くのである、時ちゃんは何處かへ行つて仕舞ふた。

●次回小説

次回小説「星月闇」はいよ〳〵明日の紙上より掲載すべし尚は豫告には作者篠原嶺葉とありしは川合柳葉の誤りにつき爰に訂正す

落語 ●美顔術

美好生

お粗末な出來合ひ顔をこねくり廻す美顔術あれは近來大分流行致しますが何に致せ醜い顔が奇麗に成つて低い鼻が高く成り凹んだ眼玉は飛び出すと云ふのでムいますから此の位結構な事はムいません、之れは又這樣云ふ事には遲れを取らぬハイカラ頭梁の金太さん流行ものに拔目はない江戸ッ兒肌でムいますからモーいの一番に驅け付けて參りました。

「お早うと來るだろう、オイ大將、親玉、大提灯、急ぎなんだ一番這樣テキパキと一つ濟まねねか……」「へヱ、親分一體何でムいます」「何だつて解りさうなもんじやねヱかコウ面の雜作を取り繕るんだ、何、そ、その美―顔―術だ、美顔術、一番威勢好く遣つ付けて呉んねヽ」「へヱ、畏りました」「オイ〳〵急ぐんだ畏まらずに立つて遣りねヽ」「へ、承知致しました」「承知と見立替かハヽヽ」「親分其れでは中等が五十錢上等が一圓でムいます、何れに致しませうか」「江戸ッ兒だよ野暮な錢勘定は拔きにしろよ、定まつて居るじやねヽか」「へヱ其れでは上等で致しますが」「何だい」「上等で――致しませう――か」「下等で遣ッて呉んな、ね、下等で遣つて呉んな」「ア、下等で……」「だが何だらうな、いくら下等たつて日に當つて崩れ出す樣な事は無からうな」「へ、ヽ御戲談を給細工じやムいませんから大丈夫で、下等でも上等でも持ちに縒りはムいませんので却つて下等で度々お遣りに成る方がお德用でムいます」「旨く云つてやがる上等で度々遣つた方が儲かるじやねヽか」「エヘヽそれは爾うでムいますが爾うも參りませんエヘヽヽ、處で何かお好みがございませうか」「お好みッて―と何だッけな」「へヱ其の丸顔とか四角とか三角とか乃至は音羽屋張り、川岸違いで伊井容峰なんて」「へーヱ俳優の似顔も出來るのかッイッは面白いね」「其ともズーット風異にアイヌか琉球人式でも」「オイ―巫山戲るな、矢張り俺れは俳優が好いね、だが誰れに似て居る」「爾うですね、マー親方の顔立ちで行くと新派で伊井、舊派の訥升ッてヽ處ですな」「俺れ―が、ほんとうか有難ね、大將上等にするよ、飛び切りで遣つて呉んな、其の伊井と訥升を混せて」「へヱ其れでは兩優の好い處を配合して一寸色取に額と頤の邊りへ新柳の顔揃を二三枚差し込みませうか」「丸で文藝倶樂部の口繪だな、其れも好からうだが、兩優を混せて眼の玉が四ッなんざ不可ねよ」「へゝゝゝ、そんな事は大丈夫でございます、其れじやどうか此方へお掛けなすつて」「シッカリ頼むぜ大將、妻の野郎れざろかして呉れるから」「おかみさんこそれに仕合せですぜ、何がつて親方爾うでせう、俳優衆だッて好い處斗りはございませんよね惡い處より好い處の方が多いからチヤホヤされるんでさ、處が親方のは其の好い處だけ撰り拔いたんですから世界一じやございませんか」「旨く云やがるな畜生」「イエ眞實でございますよ、親方」と之れから海綿で顔を洗ひまして磨石を掛けまずると其れから白粉と香水で悉皆こね付ける醜態が丸で漆喰細工でございます。然し爭はれないもので餅屋は餅屋、如何やら見違へる樣な美男子が出來上りました「へイどうもお待遠樣で、どうか御覽なすッて」と鏡の前へ立たされた金太さん、自分で自分の顔が解りません「オイ大將、此の鏡は俺れの面が映らねヽぜ」「イヱ彼れが夫で」「嘘をつけ、巫山戲やがつて、人を馬鹿にするねヽ」「イエ眞實彼れが親方でムいます、好らムいますかホーラ親方でせう」と、云ひながら金太さんの頭をポカリと一ッ「痛いナール程、して見ると矢ッ張り俺れだ、爾う云へば何所か似た處があるね、フーム人間の漆喰細工は面白いね」と大喜び、表へ出て歸らうとする向ふからチク〳〵遣ッて來たのはお友達の熊五郎さんだ「オウ熊か、何處へ行くんだ」「……」「何處へ行くんだッて……のに何とか云ひねヽな、萬更知らねヽ顔じやあるめヽし」「エー何方の旦那でございましたか、へヽヽヽ、お見それ申まして」「旦那だッて云やがら、止せよ、俺れだい」「エー俺樣と申します……」と「未だあんな事を云ッて居やがら、俺だい、金太だ」「エ、金太……ハテ聞いた樣な名だな」「好い加減にしろよ何うかしやがッたな」「氣違ひじやねヽかな」ー兩方で同じ樣な事を云ッて分れました金太さん、止せば好ひのに此の男振りを妻に見せて驚かせやうと云ふ了見、ヽヽヽ、スタコラ家へ歸つて格子戸をガラリ「オイ今歸ッたよ」聲がするから女房が出て見ると見馴れない顔だ「オヤ是れは入らッしやいまし何方らからなんでムますか」「同じ樣な事を云ッて居やがら、今歸ッたよ」「アノ亭主は只今一寸出まして留守でムいましが、モー程なく歸りませふから、マーお掛けなすッて一ふく」「上がッて飯を食ふよ、腹が減ッた」「ホヽヽ、面白い方……モー歸りませうから」「巫山戲るな、歸ッて居るじやねヽか、腹が減つて居るんだッて事よ」「ホヽヽ、御串談ばッかり」「オイ此の野郎何が串談でね、銘棒奴、串談に腹を減らせる奴が有るけねッ」「オヤ〳〵妙な事を仰言いますね、御串談もんでせう、他人の家に這入り込んで亭主の留守を付け込んで腹が減ッた飯を食はせろ……」「ヤイ、ヤイ、ヤイ、コン畜生モー一度言つて見や、他人の家だッて他人の家だ、あ何で……現在……現在手前の亭主を取ッ捕めねて他人たあ何で……」「オヤ〳〵嫌だね此の人は、亭主だなんて人聞が惡いよ、止して下さいな」「ウーム何だとコン畜生サー承知が出來ねヽから出て行け、何だか容子が怪しいと思ッたら姦通をしやがッたな、後ろ前も解らねね、樣な面アしやがッて此のあまアー」「何ですッて此の人は氣違ひじやないの、云ふ事と云はない事がありますよ、串談も休み〳〵云ッて下さいな人を……」「エ、此のあまが太ね野郎だ、モー勘辨が出來ねねからサッサと出て行け、サー出なきや斯樣だ」と云ひながら女房の髷を攫掴みにして引ずり出した、おかみさんも堪りませんから「アレー誰れか來て下さい、アレッ人殺しッ」と吐鳴りましたから家主の杢兵衛さんを初め、長家の井戸端議員が時を移さず驅け付けて見ると、此の騷動「マア〳〵何方も一寸待つてお呉れ、一体何うしたといふんです、お玉さんもお待ちよ」「家主さんですかマー好い所へ」といふ騷ぎなんです、

京城新聞

移住民の氣質

各國の殖民地に於ける氣風を觀察するに各長短あり、其成功と不成功とは政府が殖民政策の巧拙如何に因ることは無論なりと雖も、殖民其者の氣風を以て重なる原因とせずんばあらず、故に殖民氣質の適合せるものは、成功し、適合せざるものは失敗するなり、英國の殖民地が繁榮せるは政府の政策も與て力ありと雖も、概して英國人は殖民に適合せる氣質を有するが爲なり、佛國の殖民地は政府が能く努むるにも拘らず、國民は熱烈なる愛國心あるにも拘らず、英國に比較して成功せざる所以のものは、其政策の干涉に過るのみならず、佛國人は概して殖民に適合せる氣質を缺けるを以てなり、獨逸が頻りに殖民を獎勵し、鋭意殖民地の發展を計ると雖も、統一的に成功せざる所以のものは、獨逸人は國民的の殖民に適合せる氣質を有せざるを以てなり、露國も亦政府に於ては頻に亞細亞に殖民を送りて保護獎勵をなすと雖も、極端なる官憲の制壓は殖民を萎靡ならしむ、爲に永住の心を消磨せしむ、爲に殖民氣質なるもの未だ發揮せられざるなり、而して我日本は如何日本は政府も國民も殖民に就て經驗乏しく、爲に政府の政策も拙劣にして國民も亦植民としての眞價を發揮するの域に達せず今より政府も國民自身も鋭意以て植民經營を爲さゞる可らず、要するに善良なる植民的氣質を養成せざる可らざるなり、抑も英國人が植民經營に成功せる所以のものは、其氣質の莊重質實にして、家庭と共に移住するが故なり、家庭のある所は則ち墳墓の地なり、英國の植民は概して家庭を有す、既に家庭あれば墳墓は自ら其中にあり、淫賣婦に戯れてホームシックを忘れんとするの要あらんや、佛國及獨逸の植民が成功せざるは渠等に眞正の家庭なきが爲なり、既に眞正の家庭なし、較もすれば弱きものは望鄕の念起り、强きものは品性を紊して永久的の設備を缺く、獨逸人の如き能く困苦に耐へ、能く財を蓄積すと雖も家庭と共に移住せざるが爲に個人としては成功するも國民的の成功を爲す能はず、換言すれば新獨逸國を建設するが如き團結的の成功を爲さゞるなり、露國植民も家庭を擧げて移住するもの少なき爲に永住の觀念薄し、眞正なる家庭の植民經營に至大の關係あるは何人も認識する所ならん、家庭の斯く至大の關係を有する所以は、啻に最愛の妻子あるが爲のみならず、家庭には首班たる老人あればなり、遠慮も之が爲に生じ節約も之が爲になす聽て之れ資力の蓄積と活動の餘裕を生ずる所以なり、老人なき夫婦差向ひの家庭は多くは整はずして紊亂す、老人のある處常に秩序あり、整理あり、遠慮あり、之れ一家に老人の必要なる所以なり、韓國に於ける我移住民を見るに老人を有する眞正の家庭尠なし、之其氣質の兎角莊重質實を缺ける所以ならん乎、余輩は我移住民に向て、清き家庭を組織すると共に、鄕里に殘せる老人を迎へて永住の基礎を確立せんことを勸告す、斯の如くにして始て良氣風は起り來らん、然らば將來各國に誇るべき結果を見るや明なり、

●對星樓茶話

△統監伊藤公の申さるるには治外法權の撤去は公の大任也、又公の抱負也と、公の對韓經營を一貫せる政策の最後の光彩とも可申候、然し乍ら治外法權の撤去は決して帝國の對韓政策の中心には無之候。

△露國の極東經營は意氣銷沈、計劃愈遠大彼の大[illegible]の機に於て孜々として南下政策の大方針を確取しつゝある處大に可鑑候、露國軍事通の談によればシベリア鐵道沿線に於てのみ已に七軍團半の軍備を充實致候。

△加之蒙古を横斷して中亞に對する經營は寧ろ益積極にして、其高加索州總督を廢して蒙古並にシベリア方面に全力を注ぎつゝあるを可見、之を戰火によりて獲たる南滿鐵道並に關東租借地經營すらも兎角申分多き我國情と相比して將に寒心に堪わざるは此半島經營の現狀にて候。

△法令法律雨の如く、文明文化花の如く、漢城の一角に座して民長官撰問題位を以て政府の威信を云々するが如き、殆んど我國力の發展、我膨脹的勢力の前途に就て長嘆すべきこと一にして足らず、千百年間最早分かりきつたる此一小半島の經營に就て斯く多大の國力と勢力と費やすを見て吾人は天下に英雄なく、人事の寂寞に不堪候。

△彼の老大國すら間島並に森林問題等に兎角苦情を申出で、稍もすれば米淸同盟論などの囈語を吐いて我帝國に示威的外交を試むるなど、想ふに玆に至れば對韓經營は我唯一なる經營なり、宜しく國民總立となりて帝國發展の基盤を固めるの必要有之候。

△曰く暴徒、曰く梁起鐸事件、曰くベッセル、曰く排日外交本氣となりて經營の力を攪げるに於ては實に些々たる事件のみ、吾人は世界が帝國に尤も不利なる外交の機會を提へて保護權を云々せざるを杞憂し併せて杞憂せしめざる樣國民の自覺を警告致候。

△太平洋問題も必竟滿韓問題より解決せらる可く、カルフオルニア人の排日說を裏面目に聽いて對韓經營を忘却せざらんことを又ウラジオストック自由港などに天下太平の平和を夢みて北韓の開拓を忘れざる樣祈り候。

東京電報

▲小村大使歸朝

小村大使一行は明朝神戶着同夜東上す

▲統監と拓殖規定

在大磯なる伊藤統監に對し昨日曾禰副統監より長文の電報到着す右は拓殖會社の規定に關するものにて統監の閲覽濟次第韓國に於ても直に發表さるべし

▲原敬氏一行出發

原敬氏一行は今日外遊の途に就く

▲進步黨と民長問題

進步黨にては韓國民團長官選に反對する者多く次回の調査會にて意見發表の筈也

▲右續報

進步黨は本日政務調査會を開き在韓大内暢三氏より民團長官選に關する反對意見提出に付調査委員として今田福太郎大津淳一郎大石熊吉の三氏を擧げ之を調査せしむることゝなれり(廿四日發)

▲首相と陸相の衝突

軍事費繰延問題に付首相と陸相の意見衝突し首相は寺内陸相及び外松經理局長を排斥して井上第四師團長を後釜に据へんとす(廿五日發)

雜報

●關稅同盟不可能

日韓關稅同盟問題に關し大藏當局者は語つて曰く本問題は大藏省に於ては何等取調べたる所なきも其の成否如何に關しては大要左の如き研究すべき問題あり(一)日韓關稅同盟協約を締結するに於ては韓國は爲に約二百萬圓内外の關稅收入を減ずべし是れ果して韓國財政の堪ふる所なるや(二)日韓關稅同盟成立するに於ては自餘の列國は競うて最惠約欵に基ける機會均霑の申出を爲すべければ玆に國際問題を惹起し事大いに面倒となるべし(三)萬一該同盟にして成立し彼我兩國の輸出入共に無稅となるに於ては各國は相競うて先づ各種の物品を韓國に輸入するに至るべければ我が國の關稅收入は之が爲に忽ち減少を來し一大打擊を被る事なるべし(四)關稅同盟成るの曉は我が國に於て高率なる消費稅を課せらるゝ酒類の如き韓國に於て之を釀造し我が國に輸入するに至るべきを以て此の種の手段に依りて失ふべき我が消費稅額は頗る巨額に上るべし以上は唯一二の事例を擧げたるに過ぎざれども其の影響する所斯の如しさせば來る四十四年の條約改正の結果に待つと云はば兎も角今日の所兩國關稅の同盟は不可能の事なるべしと信ず云々

●韓人副總裁

(東拓)

東洋拓殖株式會社の副總裁は二名にして其の一名は韓人中より此れを任ずる事となり居れるが其の候補者に關し或は多年日本に在りて其の事情に通せる趙義淵氏の任命を見るべしとの說あるも元來同會社は營利事業を目的とするものなれば内外人の信用を得る上に於て資產あり名望ある民間の人をして其の任に當らしめざる可らざるを以て韓國の富豪として隱れなく國民全体に名を知られ居る李根培氏最も適任なりとの說ありて同氏に決定する模樣なり

●創立委員人選

(東拓)

拓殖會社創立委員百餘名中三十三名は韓人にして各道より二名宛觀察使に推選せしめ中央にて七名を任命する事となれるは既報の如くなるが既に中央に於ける人選を了し地方より推選すべきものも未濟のものは電報を以て督促して全部人選を終りたる由にて兩三日中に日本側委員の發表と共に其の任命を見るべしと

●特許に關する注意要項

昨紙報道の特許に關する注意要項は誤聞の點ありしに依り更に其の要項を再錄すべし

△日韓米國の臣民は發明意匠及び商標に付同樣保護を受け且つ諸外國人(韓國に於て發明意匠及び商標の保護に關し治外法權を行使せざる國人)にも適用せらる

△新令施行前日韓米國の臣民又は人民が日本國に於て受けたる特許意匠及び商標は別に出願を要せずして保護を受く尤も其の保護年限は日本國の夫れに從ふものとす

△新令施行の際現に韓國に於て前項に截する特許品(方法)又は登錄意匠を用ふる者に限り制裁なし尤も商標に就ては日韓米國人及日本國に於て登錄を受けたるものと同一若しくは類似のものを使用せる商品は新令施行後六ケ月以内に相當處分せざれば制裁あり

△新令施行前日韓米國人が米國に於て登錄を受けたる特許意匠及び商標は新令施行後一ケ年内に出願すれば無料にて登錄を受けらる

△出願及び請求手續に就ては特許意匠及び商標共日本國特許局に對してなすものと同一に付相當書類を認め統監府特許局長宛に提出すれば可なり出願手數料及び登錄料亦同じ

△何手續不明のものは直接若しくは郵便にて統監府特許局に照會すれば直ちに出願心得書を交付する由なり

▲豫告▼

韓國經營上偉大なる貢獻を爲すべき東洋拓殖會社は近々成立せんと致し居り候、在韓十有五萬の吾人同胞は申すも迄もなく千有餘萬の韓國民も等しく同會社の成立を歡迎致すことゝ存候、依つて本社は此際を機とし、日韓諸名士及び實業家が同會社の事業に對して懷抱せる高見を叩き願ひて日々の紙上に掲載し以て同會社關係者及び公衆の參考に資せんとするの考へに御座候、冀くは掲載の日を俟ち幸に精讀之あらん事を

右謹告仕候

京城新聞社

●大臣參與官例會

昨日午前八時より統監邸に於て各參與官參集會議を開き尙同十時より各大臣參集大臣會議を開かれ正午散會したり出席者は副統監、石塚、小宮、岡、俵、荒井、松井、倉富、中村、木内代理の各參與官等なり

●辭職勸告は無根

一進會が李完用内閣に對し總辭職の勸告をなしたりとの二三或る新聞に掲げあるも吾人の同會員に就て聞く所に依れば近頃内閣總辭職の勸告をなしたることは斷じてなく何等かの訛傳なるべしと云へり

●梁起鐸の診斷

英國總領事が重病人として引渡を躊躇したる梁起鐸は去る廿一日大韓醫院に入院以來別段の病徵なく專ら運動せしめ居れるが一昨廿四日同醫院長佐藤博士の診斷する所に依れば輕症慢性胃加答兒なるか總て韓國人は慢性の消化機病に罹る者頗る多く本人の如きも韓國人として疾病の部類に入るべきものに非ずと思考す云々

●即位紀念式彙報

明二十七日は隆熙帝即位式當日に相當せり漢城府民團に於ては之れが紀念の爲め一大祝賀會を開かんと過日來協議中なりしことは既記の如くなるが同日は漢城府民團にては銀製香爐及び頌德表を上り午後一時より景福宮内慶會樓に於て祝賀會を開き内外官民の重立たるものを招待する筈にて祝賀會長俞吉濬より夫々案内狀を發したり午後七時よりは府民團三萬餘名祝賀會事務所京城商業會議所に集合し提灯行列を行ひ昌德宮敦化門に至り萬歲を唱ふると云ふ又各學校生徒一萬餘名は學部門前に集合し鐘路より昌德宮敦化門前に至り同じく萬歲する筈なりと云へば當夜は非常の盛觀を呈すべし府民團の祝賀會費は一萬圓の豫算にて目下醵集中なり又皇帝より宴會費として各府部に百圓宛各院廳に五十圓宛を下賜されたりと

●仁川議員決議

仁川廿九回民會は一昨夜午後七時より民役所樓上に於て開かれ既報の議案を審議したる後民長官撰令に對する協議會を開きたるが各議員は何れも統監府が本令を發布せるは理由を解するに苦しむ然も御用紙等によりて發表せられたる理由といふを聞くに一、民團費を節減すると二、民長撰擧に關して民間の紛擾を矯正するとにあるが如しと雖どもかゝる些々たる事由を以て各居留地發達の歷史を無視し自治團の本能を沒却して官撰令を施行せんとすとは何人も首肯し能はざる所なり然らば必ずや右以外に韓國經營の大本義に於いて官憲の目論見あるものと思料せざるべからず即ち吾人民團の爲めに大々的利益を生ずべき理由なからざるべからず若し之れなしとせば吾人は飽迄反對の旗幟を飜さゞるべからざると共に又事實に於いて官撰令の完全に行はるべき謂れなし依つて吾人は此意を以つて統監若くは副統監に親しく面接して其理由のある所を聽取して後最後の態度を定むべしとの意見にて左の如く決議せり

一、若干名の委員を推撰し親しく統監若しくは副統監に面接して民長官撰令發布の理由を拜聽する事

二、民團の事情を詳細に具申する事

三、右委員の報告によりて利害得失を研究し其上にて各員の態度を決する事

以上の如く決議し委員の推撰をなしたる結果左の五名を推撰したり

加東榮太郎氏、足立瀧次郎氏、桑野良太郎氏、稻田勝彥氏、田中佐七郎氏

●足立議長の通知

仁川居留民會議長足立瀧三郎氏は昨日京城居留民會議長和田常市氏に宛て別項の決議の件を通知回答せり

●投票代書に就て

兼て仁川居留民團より選擧投票は代筆にて差支なきやを質問中なりしに對し民會議員投票は代書を許さざる旨統監府より回答し來れり

●通關組合協議會

數年前より仁川通關業者は通關組合なるものを組織し組合費を以て稅關内に家屋等建築し居たるが今回貨物取扱人規則發布せられて僅かに十名(郡回送店昨日免許を受く)免許受けたるのみなれば從前の組合を其儘適用する能はざるを以て近々中に前組合を解散し新に確實なる組合を組織する筈なるが多分今度の取扱料協定會後右創立協議會を開催すべしと云ふ

●韓太子湯本着

箱根に赴かれたる韓太子伊藤統監一行は昨日湯本に着せられたりとの電報ありたり

●村田明石兩將軍消息

村田明石兩將軍の一行は廿四日午後七時開島統監府派出所に着せらる一行は廿七日迄滯在廿八日出發歸任の途に就くべしとの電報其筋にありたり

●横山聯隊長追吊會

步兵第五十一聯隊にては來る三十日南山本願寺に於て過日死去されたる同聯隊長横山大佐の追吊會を執行せらるゝ由なり

●松井局長の消息

地方巡視中の松井警務局長は廿二日午前海州を發し行程十二里を了へて載寧に着し廿三日安岳に着廿四日正午同地を發して長連に向ふ此の地方は宗教熱及び教育熱頗る盛んに見受けられ多少此れに伴ふ弊害ありと認めたるを以て注意を與へ置きたりとの電報其の筋に達したり

●ポンプ置場

仁川民團にては今回買入れたる蒸氣ポンプ置場選定委員として桑野、萬玉、清水、稻田、の諸氏を指定し本日實地調査をなすべしと

公人私人

▲鹽谷五郎(帝國鐵道廳技師) 一昨夜平壤より歸京山本旅館

▲比田孝一(統監府技師) 一昨夜入京巴城館

▲秦豐助(長崎縣事務官) 一昨日下仁

▲中山案次郎(平壤財務官) 一昨日下仁

●近事片々

▲一犬虛を吠へて萬犬實を傳ふ風說も屢々傳はれば終には事實となることもある也

▲儼妃渡日も此感あり東京の大新聞迄が社說に歡迎文を掲るに至る世の中は甚だ妙

▲米國大統領の南阿猛獸狩に隨伴せんとする者七千人に及び世其人氣の高大を稱す

▲然るに或る米人はル氏の人氣高大なりと雖日本の大政治家伊藤公に及ばずと云ふ

▲其故はル氏には伊藤公の如く夜每日每に縱りて寵を得る美人なしと是諷刺の巧妙

▲併し伊公も艷事を每度新聞に素破拔れる事は多少こたへると見へ時々怨言を漏す

▲舞子にて新聞記者連に對して怨言すら乃公は西瓜の如く始終叩かれながら也と

▲乃公の遊興を攻擊するは可なり外人の事は余り素拔く可らずと尤もらしく云ふ

▲艷事を新聞に書れることは余程に氣になると見ゆ是れ未だ色氣の失せざる所以乎

▲御用紙近來目切大人しくなり最初の元氣は何處へやら行きたり目下謀[illegible]中に候や

▲民長官選令發布當時は四方八面に應酬[illegible]綽々餘裕あるの態度なりしが[illegible]も不思議乎

▲少しは何とか應酬されてもよかろうと云ふ者多し新參生先生些と御奮勵希望仕候

▲新參生先生新聞記者品性論を聞かざるや久し此頃に御名論を承り度とは一般の望

▲本年中は濟州島に滯留と定れる如く報せられし朴泳孝亦兩三日中に歸城との事也

▲是れ韓國式と云はんより寧ろ朴泳孝式ならん乎濟州島に今暫く居るが一体無事也

▲漢城に歸れば本人は政界に念を斷てりとも之を擔ぎ廻る策士に誤らるゝの恐あり

▲策士に持ち上げられては下地は好き也御意はよしで終に釣り込るゝに至る御用心

▲金玉均も夫で釣り込れて上海下り迄命を拾に行けり兎角韓人は政權狂で困り奉る

▲政權談となると韓人は皆目が暗らむ傾きあり夫故に告失敗をする深く自省すべし

▲保護國となりて以來政權爭奪するものは甚だ無意味なり然るに尙覺醒せざるとは

▲最早韓人は政治上の事は弗然思ひ切りて實利的方面にのみ熱中するのが肝要なり

▲然るに未だ政客等政權に戀々として較もすれば謀反を企つとは余り目先が見へぬ

▲詩を作るよりも田を作れとは全く韓人に對する好き訓戒ヨボ君等希々服膺すべし

●憲兵補助員の不埒

過般平壤郡柴足坊冷井洞農金正洙なるものが匪徒のために自己の住宅八十餘間を悉く燒き拂はれたることは當時之を報道し置きたるが同人はその後全家を擧げて平壤大興部司倉洞に移住し居たるところ一昨日午後三時ごろ當憲兵分隊補助員咸一外一名の韓人訪づれ來り我等は隊長の命令により出張したるものなるが當家に火繩銃を隱匿しある筈ゆゑ速かに差出すべしと居猛高になりて談判するにぞ主人正洙を始め家内のもの何れも驚き恐れ決して所持せざる旨を述ぶるより種々辯解したるも咸等は聞き入れず果ては取繩を出して正洙を高手小手に縛り上げ憲兵分隊へ引連れ行かんと犇めくものから隣家の誰れ彼れその場に馳せつけ一方補助員をなだめ一方正洙をして酒肴を出さしめしに咸一等は遠慮なくパクつき軈て正洙に兎も角も一先づ分隊に來るべしとて覺に同人を東湖門近くまで伴ひ行きソコにて正洙に向ひ此儘にて同行せば隊長は大に立腹せらるべし何處かで一挺古銃を買ひ來りて之を持ち行くべし我等は其間蕎麥屋に入りて休息せんと其邊の或る蕎麥屋に入りて又々飲食をなしたるが正洙の去らざるを見て何程か金錢を出すべし左すれば銃を買はざるも好し又之より歸宅しても好し隊長の前は我等にれいて然るべきやう取繕はんと言ひ出で正洙が生憎持合せの金なしといへば然らば今夜その方の宅に趣くべきにつき夫までに調金し置け若しか間違ふと承知せぬぞと威しつけ玆にて立別れたるが正洙の從弟に金東洙なるものありて此事を聞つくるや直ちに憲兵分隊に至り補助員等の不埒なる行動を訴へ出でたりといふ近來補助員が良民を苦むるとの風聞到るところに高し當局者の嚴重に取締るべき事ならむ

●漢江里の火事

餘烟天を焦すこと五時間

一昨日午後十時半頃より南山の方面に當りて餘烟天を焦がし如何にも大火の如く思はれたるも其何處の出火なるや詳かならざりしが翌午前二時半頃に至りて折柄の大雨と共に消へ去るに至りたるが此餘烟こそ南山の南麓にて京城を距る約一里漢江の瀕り漢江里上洞の出火にて全燒七戶半燒四戶其他薪等を燒燼して翌午前二時三十分頃に至り鎭火せり原因は未だ明かならざれど同所は漢江沿岸にて稍や人家稠密の地にて沿江の要所なれば長湖院其他漢江の上流より下す薪炭を揚陸し之を京城に搬送するを以て同所には平生薪や柴等を山の如くに積みあり此日も薪及び松葉等を山積しある傍らに石油を置きありしとのことなりしかば韓人が烟草の吸殻が折柄の風に煽られ積みありし薪に燃へ付き又石油に移り遂に東風に煽られ斯る大事に至りしものか或は又放火ならんと云ふ兎に角江岸に山積しありし薪や松葉等の燒くることなれば其火勢の凄じきこと云ふばかりなく爲めに餘烟天を焦すこと五時間に及びたれば京城よりは之を見て非常なる大火の如くに思はれ其火光の爲め京城は一時月夜の如くなりしも十二時過ぎより雨降り出で二時頃に至りては大雨となりしかば流石猛烈を極めし火勢も二時半頃に鎭火するに至れり此報の龍山警察分署に達するや同署よりは直ちに警部巡査出張し消防に盡力したりと云ふ

●清津の邦人情死

韓國に渡來せる程の邦人には情死する迄に上せ揚げる者なぞ又如斯小心者なしとは人の常に口にする處にして曾て相思の男女が韓國に於て情死を遂げたる事は未だ耳にせざる所なりしが玆に遙る〳〵淸津港に流れ渡りし男女が情死を遂げたる珍聞あり男は淸津港敷島町一丁目に理髮業を營める大阪府の平民西村喜三郎（二十六）にして女は同港幸町五丁目料理屋甲賀方に仲居を勤める東京市平民關たつ（二十）なり

▲男の素情　西村喜三郎は本年六月六日安東縣より淸津に來り料理屋甲賀安宅及び其の他の友人より醵金せられて前記の處に於て理髮業を爲し居たり

△女の素情　關たつが淸國鐵嶺より去年四月安東縣に來り料理人なる大阪府平民福田卯之助なる者の內緣の妻となり六月淸津に來りたるも固より餘財の貯なき身なればたつは前記の甲賀方に仲居に雇はれ福田は間島龍井村なる料理店春日亭の料理人となりたる後にて兩人は道ならぬ契りを結びしも人目を忍ぶ戀路の儘ならぬに兩人世をはかなむ事も屢々なりき

△兩者の關係　然るに去月六日午前六時頃たつは密かに甲賀方を脱け出で西村と相携へて鏡城方面に逃走したる形跡ありしにより甲賀方にては直ちに人を遣して搜索せしめ兩人が獨津に居りしを發見し同行羅南を經て歸宅の途次豫て羅南には西村喜三郎が知り合ひの土木請負業黑川某なるもの住せるを以て同家に立寄りたるに黑川も兩人の不心得を諭したるに兩人其の說諭に服し同地に一泊して翌日淸津に歸る事とせり

△情死の現場　翌朝に至りしに兩人の姿見へざるを以て一同大に驚き附近隈なく搜索せしも見當らず午後に至りて韓人が附近の谷間に日本人男女の血に塗みれて倒れ居る由を通報し來りたれば皆々打連れて現場に駈付け見しに果して兩人はピストルにて情死を企てたるも共に死切れず相思に兩人は互に手を執り合ひて死期を待ちつゝありし處なりしを以て直ちに開業醫及び軍醫の出張を請ひ直ちに黑川方に引取り治療中のところ由なるが共に重傷にして生死の程は明かならずと云ふ

●十五貫目の甘藷

▲萬龍と瓢屋女將の大磯遊覽

大磯海水浴場に去る十日頃から一際目立つ女連れあり華美作りの五十女が總司令長官の格で他は白いもの〻氣の失せぬ婀娜者六人中に艶の中の一鶴、情知らぬ船人の目にもつきて唯者ではないとの噂さり〳〵なるも道理是れこそ三萬圓藝妓の盛名全都に鳴る春本の萬龍（十六）にて五十女は築地瓢屋の女將島田れ惠津（五十）他は娘の末子（十八）靜子（十五）八重子（十五）それに附添の女中さこそは知られたり此の一行山の手は招仙閣に陣を構へ豪奢を見得の金遣ひに折柄滯在中の紳士を驚かし居れど笑ふにも齒を見せぬといふ愼しみは流石女將の括りさこそ肯るれされど好きには眼がなく三度向ふ膳の外に御前のあられもなく十七日迄に甘藷十五貫目氷二百七十八杯を物の見事に平らげ宿の主人をして前代未聞と舌を捲かせた上十七日午後一時四十二分の上り列車にて萬龍一人は東京へ歸り女將は殘りの一行を率て箱根塔の澤なる井上大使（勝之助子）の御機嫌伺ひとして罷りたれど其場では豊夫に御前の御馳走をとは言はざりしなるべし



●脱獄囚捕はる

一昨日鐘路監獄を脱走したる囚徒一名は中署茶洞に於て中部署警部李鍾國及び韓巡査の爲めに捕はる

●因果は廻る小車（一）

サテ梅香は氏なくして乘りし玉の輿の今は可愛いの迄設けて氣儘氣隨に其の日を送り居りしが根が浮氣稼業の泥水育ちいつ迄も旦那一人を守つて居ることの何うやら物足らぬ所から終には他に仇し男を拵へ旦那の留守中にはいつも其の男とある場所に密會して痴話狂ひをなし居りしが阿漕が浦に引く網も度重なりては次第〳〵に人目に觸れ自づと旦那の耳に入りたりしかば旦那は非常に立腹しこの恩知らず奴、不埒奴〳〵がと今更はしたなき女に關係せしを痛く後悔したりしがサア今さなりては甚麼する譯にも行かず空しく不快の念を抱きつゝも面には平氣の樣子を裝ひ居りしが頓て梅香には誰の胤やら知らぬ迄〳〵重くなり行き果ては月滿ちて女の兒をば生み落しぬき、因より怪しと思ひし旦那には爰に端なくも女兒の分娩を見ていよ〳〵不快の念いや增し終に其の年の暮れ因果を含めて梅香と手を切り自分は先きに生れし男の兒を女には後より生れし女の兒をさづけ一先づ靑山の片邊りに引き移り又女は本郷の知人に身を寄せたり

理事廳前

先般漢城病院內科部を辭し歸省中の處歸京左の所に於て診察に從事す

統監府通信管理局囑託　醫學得業士　池田季雄

●病院とは嘘

太平町一丁目四十四番戶飮食店相澤市太郎方酌婦鈴木イワ（二十）は先頃より病氣に罹り痛く其不幸を嘆ち居しが伊藤組車夫西村武次が聞きソワ氣の毒の次第今度新築されたる大韓醫院には知人あれば其人等に事情を話して病氣の全快するまで一切半額にするから俺が引受けて治療させて遣ろうとのことにイワも大に喜び武次に依賴したれば武次は直ちに市太郎に向ひ右の次第を語りたれば市太郎も喜びて承諾したるにぞ武次は心の中でホク〳〵喜び直ちに自分の車に打乘せて病院に行くとて市太郎方を挽出したるは十日計り前のことなりしがイワは大韓醫院に行くものと思ひながら車に乘りながら見ればコワ如何に病院ならぬ南山町一丁目三十一番戶なる同じ伊藤組の車夫眞子熊吉方に下されたるにイツ吃驚して暫時言葉もなかりしが武次は落着たものでイワに向ひ今少々金の都合が惡いから此處で辛抱して呉れとて二三日も其儘經過したるに雇主たる市太郎が耳に入りソレ怪しから其儘にはし難しさ五六回もイワ取戾しの談判に及びしもイツかな引渡ろうともせず却て他の者等が助勢するなど不穩の行動に及ばん氣味ありしにぞ市太郎は已むを得ず昨朝南部警察署に出頭し斯々の次第を訴へ出たるにぞ同署にては直ちに前記關係者一同を召喚し取調べの上イワは雇主に引渡されて落着したりと

●女の出齒龜

原籍廣島縣尾の道市永谷道之介長女ヤス（二十）は生れ付きいたつて尻輕の女にて此れ迄も大分自然主義の味を重ね男から出齒られるを待ち兼ねて此方から出齒つてた呉れと持ち掛ける程の厄介者なりしが同人は去る一月頃金を儲けたいが好いた情夫も拵へたいといふ慾張つた心から渡韓し最初は仁川に尻を据へて私しの所は一寸コンナ恰好だヨ見て呉れと毎日〳〵色色を使ひながら市中の出齒龜の親類の居さうな所を廻り行きしが誰とてソンナ不恰好な女に惚けるものはなく尤も唯での●●●れひろめなら人氣取ると思つて相手にもならうがサモなくばイヤだといふ者のみなりしかば同人も一時は大に落膽せしが頓て勇氣を皷し何に裏女に廢れがあるものか日本の男がアンデーといふならソコは世界は廣いもの朝鮮人もあればチャンコロもある罷り間違へば牛でも馬でも何んでもある、ナニ日本人に限つた事があるものかと爰に方針を替へて仁川停車場前の表畑とかいふチョコマンの酒屋に奉公し專ら韓人相手に上等中等下等の切賣の商賣に餘念なかりしがいつの間にか誰の情とは知らぬ因果の胤を宿したりしかば流石の同人も大に閉口し困つた事をとは思ひ居りしが腹の兒が丁度六ヶ月目になるさ如何なる都合にや流產せしより大に喜びソレより又々手當り次第に娼賣の安賣を營みたりしに終には烈しき梅毒を病ひ今は重き枕につきたりしが幸ひ其家の主人の手厚き看護により全快し最早男は見るのもイヤと思ひ諦めしも持つて生れた性分はナカ〳〵に矯るものにはあらず昨今は西小門通のオンドルにて又々盛んにヨボを相手の娼賣に怠りなしとかいふ

●妻へ說諭願

南大門外葛月里金用云の妻柳姓女は去る十四日の夜痴話が嵩じて夫婦喧嘩となり遂に家出したまゝ歸宅せざりしが此程南部司畜洞四十五統一戶梁在浩（四十）の家に潜み居ることさ判明し歸宅する樣說諭なし下されたしと南部署へ願ひ出でたりと

●泥チョン

南山町二丁目二十九番戶上原虎司の雇人朴山伊（十五）といふチョンガーは六月末頃主人の金壹圓七十錢を窃取したることありし此度又々七十二錢の金紛失したれば多分朴の所業ならんと南部警察署に訴へ出たれば目下取調べ中

●京城座舞臺開きの景況

京城座の舞臺開きは既報の如く大阪俳優中村長右衞門一座に據りて行はれたり先づ入口には酒樽やビール箱等山の如くに積み上げ櫓內には數十本の幟を建て景氣を添へたり午後六時の豫定時間となるや翁渡しの式三番叟にて始まり夫より當日の藝題たる小栗判官を演じたるが何れも好評を以て觀客に迎へられ案內に依りて來場したる者何れも滿足にて見物したり

●日本麥酒第三回抽籤

日本麥酒會社の景品附大賣出しは到る處好評を博し第一回は仁川第二回は京城に於て抽籤を擧行し第三回たると同時に最終の抽籤は第二回の場所と同一なる京城南山紀念碑側なる音樂堂に於て昨朝午前十時執行に着手し同十一時五十時終了したるが會するもの同會社出張員京仁販賣組合員等を始め雨天にも係らず傍觀者は前回にも增したる程の盛況にて京城各新聞社員亦立會したり因に景品引換は來る九月十五日と決定し玆に盛なる午餐の席を張り散會したるは正午十二時なり

●赤痢發生

南大門蓬萊町一丁目村上市三郎長男正勝（四つ）は昨朝發病赤痢と診定されたり

●天氣豫報（自廿五日午後六時至廿六日午後六時）

北又は西の風雨後曇り

二十五日午前六時各地氣象概況

今朝一低氣壓は支那東海の南部に顯はれ北東に進まむとすこれを以て全國概ね雨天にして京城元山は風力疾風に達す

●暴風警報（二十五日午前十時七分發）

警戒風雨稍烈しき虞あり海陸を警戒す

低氣壓の位置　東海南部
最低氣壓　七百四十八粍
低氣壓の進行方向　北東
警戒區域　韓國南部

幇間 富本半平の身上(二)

夫からといふものは稼業をソッチ除けにして浮れ出しました世の中に此れ位な馬鹿氣た噺がある譯のもんぢやアありません……親子して道樂の競爭といふのですからね何方様に限らず此れ遊興の味をお覺えになら ん先こそ眞面目で物事をおやり遊ばしますがサア茶屋酒の味が次第々々に染み込んだが最後今迄の心入とはガラリ變るものでムいます手前なども矢張其れ仲間で我家を外にして毎日毎夜ブラリ〳〵と其處此處と遊び歩き如何も手の付けられ無い道樂者になつて仕舞ひました

マア斯なると我家はカタ無しでムいます駈出しの幇間の事ですから親父が稼ぎなどは知れたもので夫れに手前が稼業を留守にするといふのですから堪りませんや其日〳〵がピー〳〵風車とおいでなすつた普通のものなら此の所青息吐息の愁嘆場で「……アヽッ浮世がやなア……」か何か厭に理につんだ文句を並べ腕を組んで頭腦を捻るのでムいましようが其處が夫れ呑氣な親子同志で更に驚ろか無い親父は例の通り扇バチ〳〵のオホンを極めてる側から伜は相變らず遊びに夢中になり喰ふ物も喰は無いでサアサア浮いた〳〵だからやツ切れ無い

夫れを先代の半平さんが見るに見兼ね親父さんは俺ッらの様な稼業をして居る身體だから呑氣なのも是非が無いとした所で宜い若い者のお前さんが夫れぢやア仕様が無い今迄の職業が厭になつたら厭になつたで又他に工夫もあらうぢやアないか惡い様にはしないから兎に角俺ッちの家へ來て居るが宜いと親切にいつて下すつたので窮りにこまつてる最中でしたから渡りに船といふ氣でおぢやアお氣の毒さまですがお言葉に甘……ましてといつた様な工合でトゥ〳〵食客と出掛けました所が此半平さんといふ幇間が親父にも勝つた大の呑氣者と來て居るのですから察し下さいでさア

今でこそ幇間も貯金をする位の生活になつて居りますが其時分は隨分貧的ではヒケを取りませんでした先代の半平さんといへば御存じの方もムいましようが押しも押されもせぬ立派な幇間でした其幇間が如何です着換への衣物一枚無いのですあきれ返るぢやアありませんか然し其頭は其貧乏なのが賢り物になつて却つて座敷が出來たといふのですから客様も變つて居たに違ひ無いですからドテラの上に如何はしい羽織などを引ッ掛け夫れを現はすまいと頻りに裾綿の厚いフキを膝の下に押し込んでモヂモヂして居るといふ様な連中が大分あつたものです今日で御覽じろ如何も彼男は怪しからん風體をして居るぢやアないか以來彼男を呼ぶを廢さうなどゝおつしやつて直ぐ信用を失つて仕舞ひます

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月金拾參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城新聞社 京城西署西小門通 電話六六三番